

平成30年度
自己点検・評価報告書



令和元年 9 月

獨協医科大学附属看護専門学校

目 次

自己点検・評価報告書の刊行にあたって	1
1. 学校の現況	2
1) 学校名及び設置者	2
2) 所在地及び認可年月日	2
3) 沿革	2
4) 課程・学科の構成	3
5) 学生数及び教員数	3
6) 就職状況一覧	3
7) 看護師国家試験状況一覧	3
8) 入学試験実施状況	4
2. 教育理念・教育目標	5
3. 平成30年度の基本方針	5
4. 評価項目の達成及び取り組み状況	7
1) 教育理念・目的・期待する卒業生像	7
理念・目的・期待する卒業生像	
課題と今後の改善方策	
2) 学校運営	8
運営方針	
事業計画	
運営組織	
人事・給与制度	
意思決定システム	
情報システム	
課題と今後の改善方策	
3) 教育活動	10
目標の設定	
教育方法・評価等	
単位認定・成績評価等	
資格・免許の取得の指導体制	
教員・教員組織	
課題と今後の改善方策	
4) 学修成果	13
就職率	
資格・免許の取得率	

卒業生の社会的評価
課題と今後の改善方策

- 5) 学生支援……………14
 - 就職等進路
 - 中途退学への対応
 - 学生相談
 - 学生生活
 - 保護者との連携
 - 卒業生・社会人
 - 課題と今後の改善方策

- 6) 教育環境……………17
 - 施設・設備等
 - 学外実習・インターンシップ等
 - 防災・安全管理
 - 課題と今後の改善方策

- 7) 学生の募集と受入れ……………19
 - 学生募集活動
 - 入学選考
 - 学納金
 - 課題と今後の改善方策

- 8) 財務……………21
 - 予算・収支計画
 - 監査
 - 財務情報の公開
 - 課題と今後の改善方策

- 9) 法令等の遵守……………22
 - 関係法令、設置基準等の遵守
 - 個人情報保護
 - 学校評価
 - 教育情報の公開
 - 課題と今後の改善方策

- 10) 社会貢献・地域貢献……………23
 - 社会貢献・地域貢献
 - ボランティア活動
 - 課題と今後の改善方策

自己点検・評価報告書の刊行にあたって

本校は1974（昭和49）年、獨協医科大学附属高等看護学院として、同年開院した獨協医科大学病院で働く看護師の育成を目的に創立されました。

1学年定員40名からスタートし、1982（昭和57）年、新たな越谷病院開院を控えた看護師の増員に備え、高等看護学院（各種学校）から看護専門学校（専修学校）への改組が認可され、名称も獨協医科大学附属看護専門学校に改称されました。翌1983（昭和58）年の入学生より定員は100名となりました。

1990年代に入ると、3度のカリキュラム改正や男子学生の増加など、社会情勢や医科大学の方針の変化に伴って、本校の存在意義も変わってきました。本校は、1994（平成6）年より男子学生の入学を始め、2001（平成13）年より社会人入試を導入しています。

2007（平成19）年、獨協医科大学看護学部の新設に際して本校閉校の議論もされましたが、前年の日光医療センターの開院や7対1看護体制の導入など、看護師の増員要請はさらに続くことが見込まれたため、むしろ存続の必要性は強くなってきました。

2014（平成26）年4月、本校は創立40周年を迎え、その記念事業の一環として「獨協医科大学附属看護専門学校創立40周年記念誌」を刊行しました。本校にとって初めての記念誌となり、1974（昭和49）年の創立より始まる歴史を、貴重な資料や写真等により詳細にまとめ、さらに大学病院、越谷病院（平成29年11月15日埼玉医療センターと改称）、日光医療センターそれぞれ注目すべき動向、卒業生の活動状況にも焦点を当て、創立40周年を迎えた本校の現状を編纂しました。

2019（平成31）年3月43回生が卒業し、これまでの卒業生総数は4,069名となり、獨協医科大学（本学）が有する病院はもとより、全国各地で保健師、助産師、看護師、養護教諭、また看護師養成学校教員、指導者、管理者として活躍し、地域の保健医療に貢献しております。

平成28年度、初めて自己点検・評価を行い公表いたしました。平成29年度はその結果を踏まえて改善すべきところは改善し、学校の教育の質保証を図っていくことを目的に、自己点検・評価を行いました。評価項目の構成、評価基準は同様とし、評価基準の2～1の項目については改善又は要望し、重点課題として、主に教育理念・目的・期待する卒業生像、教育環境、学修成果について取り組んでいきました。厚生労働省は、2018（平成30）年4月より、看護職員を取り巻く状況の変化及び現在の教育実態を踏まえ、将来を担う看護職員を養成するため看護基礎教育の内容と方法について、具体的な検討を行うことを目的に、看護基礎教育検討会を開始しました。このことを受け平成30年度は10月よりカリキュラム検討会（仮称）を立ち上げ、平成29年度に重点課題として挙げた項目についても、改めて見直し検討しました。また、念願であった無線LANが整備されたことを受け、有効活用した教育方法に取り組んでいきたいと考えています。

今後も本校に求められているもの、そして本校の特徴や魅力について明確にし、看護職を目指す志の高い学生に応えるべく学校づくりをしていきたいと考えています。そのためにも引き続き、自己点検・評価に取り組み、学校関係者評価、第三者評価へと繋げていきたいと考えます。

関係する多くの方々の助言・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

令和元年9月

獨協医科大学附属看護専門学校 学校長 宇佐見 規子

1. 学校の現況

1) 学校名及び設置者

学 校 名：獨協医科大学附属看護専門学校

設 置 者：学校法人 獨協学園 理事長 寺野 彰

2) 所在地及び認可年月日（所轄庁名）

所在地：栃木県下都賀郡壬生町大字北小林 880 番地

認可年月日：昭和 57 年 12 月 3 日（現文部科学省）

3) 沿革

1974（昭和 49）年 4 月	獨協医科大学附属高等看護学院開校 入学定員：40 名 3 年課程 収容定員：120 名
1975（昭和 50）年 8 月	獨協医科大学附属高等看護学院第 2 部（定時制）設置認可
1975（昭和 50）年 9 月	獨協医科大学附属看護専門学校第 2 部開校 入学定員：40 名 2 年課程 収容定員：120 名
1981（昭和 56）年 3 月	獨協医科大学附属高等看護学院第 2 部（定時制）学生募集停止
1982（昭和 57）年 12 月	各種学校から専修学校（看護専門課程）に改組 併せて名称を「獨協医科大学附属高等看護学院」から「獨協医科大学附属看護専門学校」に変更 入学定員：100 名 3 年課程 収容定員：300 名
1983（昭和 58）年 9 月	獨協医科大学附属看護専門学校増築竣工式
1984（昭和 59）年 10 月	推薦入学試験を導入
1993（平成 15）年 5 月	獨協医科大学附属看護専門学校同窓会設立
1994（平成 16）年 4 月	初めての男子学生入学（1 名）
1995（平成 17）年 8 月	課程学科を「看護専門課程看護学科」に変更 これに伴い、称号記を「専門士（看護専門課程）」とする。
1995（平成 17）年 12 月	獨協医科大学附属看護専門学校校歌完成
1997（平成 19）年 3 月	課程学科を「医療専門課程看護学科」に変更 これに伴い、称号記を「専門士（医療専門課程）」とする。
2001（平成 13）年 10 月	社会人入学試験を導入
2014（平成 26）年 6 月	獨協医科大学附属看護専門学校創立 40 周年記念式典・祝賀会を挙
2015（平成 27）年 10 月	学生寮 Dormitory いちよう竣工
2016（平成 28）年 4 月	初の看護師資格を有する学校長就任
2016（平成 28）年 4 月	自己点検・評価委員会を設置
2017（平成 29）年 3 月	自己点検・評価報告・公表
2018（平成 30）年 9 月	自己点検・評価報告・公表

4) 課程・学科の構成 (平成 30 年 4 月 1 日現在)

課程名	学科名	開設年月日	修業年限	入学定員	収容定員
医療専門課程	看護学科	平成 9 年 3 月	3 年	100 名	300 名

5) 学生数及び教員数

	定員	在籍数	定員充足率	専任教員数	兼任教員数
平成 30 年 5 月 1 日	300 名	303 名	101.0%	21 名	160 名
平成 29 年 5 月 1 日	300 名	302 名	100.7%	20 名	153 名
平成 28 年 5 月 1 日	300 名	315 名	105.0%	20 名	152 名

6) 就職状況一覧

項目	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
卒業者数 (A)	95 名	96 名	103 名
就職希望者数 (B)	93 名	91 名	98 名
就職者数 (C)	86 名	90 名	94 名
専門分野就職者数 (D)	86 名	90 名	94 名
全体就職者数 ($\% = C / A$)	90.5%	93.8%	91.3%
希望者就職率 ($\% = C / B$)	92.5%	98.9%	95.9%
専門就職率 ($\% = D / C$)	100.0%	100.0%	100.0%

7) 看護師国家試験状況一覧 (新卒のみ)

項目	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
受験者数 (A)	95 名	96 名	103 名
合格者数 (B)	88 名	95 名	97 名
合格率 ($\% = B / A$)	92.6%	99.0%	94.2%
全国平均値	94.7%	96.3%	94.3%

8) 入学試験実施状況

年度	試験区分	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			実質 倍率
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
平成 30 年度	推薦入試	1	50	51	1	50	51	1	46	47	1	46	47	1.1
	社会人入試	4	10	14	4	9	13	3	5	8	2	5	7	1.6
	一般入試	18	122	140	18	119	137	12	86	98	7	46	53	1.4
	合計	23	182	205	23	178	201	16	137	153	10	97	107	
平成 29 年度	推薦入試	2	39	41	2	39	41	2	39	41	2	39	41	1.0
	社会人入試	4	8	12	4	7	11	1	5	6	1	5	6	1.8
	一般入試	13	108	121	11	104	115	10	90	100	6	43	49	1.2
	合計	19	155	174	17	150	167	13	134	147	9	87	96	
平成 28 年度	推薦入試	2	31	33	2	31	33	2	31	33	2	31	33	1.0
	社会人入試	7	17	24	7	17	24	2	11	13	2	9	11	1.8
	一般入試	13	152	165	13	151	164	6	99	105	4	53	57	1.6
	合計	22	200	222	22	199	221	10	141	151	8	93	101	

合格者数：正規の合格者数

入学者数：繰上げ合格者含む

2. 教育理念・教育目標

【教育理念】

獨協学園は、「知育・徳育・体育」この3つを掲げ教育に臨んでいる。獨協医科大学の建学の精神は「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師を育成する」ことを教育の基本理念としている。本看護専門学校は、この建学の精神に基づいて、看護の実践的専門的職業教育を通して人間形成をするとともに、多様化・国際化の進む社会の中で、臨床看護実践を科学的・倫理的に遂行する能力、看護の発展と質の向上に貢献できる基礎的能力を備えた「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する」ことを教育の理念とする。

【教育目標】

1. 人間の権利と生命の尊厳を尊重し、看護倫理に基づいた思いやりのある看護師を育成する。
2. 看護の対象を生活している人として理解し、その人が必要としている看護が実践できる科学的知識や技術を養う。
3. 保健・医療・福祉に携わる者として協働意識を持ち、チームの一員としての態度を養う。
4. 心身ともに健康で、バランスの取れた豊かな人間性を養う。
5. 看護の発展や質の向上に貢献できる臨床看護実践能力を養う。

3. 平成30年度の基本方針

本学の附属看護専門学校としてのこれまでの伝統を守り、「信頼される看護師を育成する」ことを教育理念とし、今後も努力していきます。

また、創立 50 周年に向けて本校に求められている課題に即応した合理的・効率的な運営を目指していきます。

1. これからの医療を見据えた看護基礎教育の在り方について考えていく。
 - 1) 看護教員として必要な教育力の向上に努める。
 - (1) 学内外を問わず、研修会・学会等に積極的に参加し、自己啓発に努める。
 - (2) 自らの課題を明確にして、取り組んでいく。
 - 2) 教育内容の充実を図る。
 - (1) 教員間における相互授業参観を通して、授業内容や方法の検討・研鑽に努める。
 - (2) 無線 LAN を有効活用した教育方法に取り組む。
 - 3) 臨地実習の現状と課題を明確にして、さらに意義ある授業として構築していく。

実習施設との連携・協働の在り方を共に考え、実践していく。
2. 学習環境としての施設・設備等に関する管理を徹底していく。
 - 1) 教室・実習室等の整備・点検、校内施設の保守・点検の徹底
 - 2) 物品（教材、教具、図書等）の管理・整備
3. 学校安全対策に取り組む。
 - 1) 校内の防犯対策
 - 2) 災害時の対策（自然災害：地震・台風など、人為災害：火災・交通事故など）
 - 3) 感染症対策
 - 4) 臨地実習中の事故防止対策

4. 情報の適正管理に取り組む。
5. 看護職を目指す志の高い学生に応えるべく、有効な広報活動を行う。
 - 1) 本校の現状と課題、社会の動向をとらえて、以下の広報活動について企画・実施する。
 - (1) 推薦指定校への訪問ガイダンスの実施
 - (2) 社会人を対象とした学校説明会の開催
 - (3) 高校進路指導教員を対象とした学校説明会の開催
 - (4) 夏季オープンキャンパスの開催
 - (5) 高校2年生を対象とした学校説明会の開催
 - (6) 業者主催進学ガイダンスへの参加・新たな開発
 - (7) ホームページ・スクールガイド等の充実
6. 看護師国家試験 100%合格を目指す。

入学時より段階的・継続的に、また学年・学生個々に応じた国家試験対策に取り組む。
7. 本学への高い就職率を維持する。

本校創立目的・教育理念・特性等を明確にし、個々の学生のニーズに応じた支援をしていく。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

1) 教育理念・目的・期待する卒業生像

中項目		小項目	評価	根拠
理念・目的・期待する卒業生像	1	理念・目的・期待する卒業生像は、定められているか	4 ③ 2 1	本学の建学の精神に基づき、附属看護専門学校として専門職業人を育成することを目的とし、期待する卒業生像として教育目標に定めている。
	2	期待する卒業生像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4 ③ 2 1	本校は本学の附属看護専門学校としての位置づけにあり、本学に勤務する看護師の育成と、地域に貢献する人材の育成を教育目標として掲げている。しかし、教育課程の策定において、本学の病院（大学病院・埼玉医療センター・日光医療センター）並びに地域社会のニーズに適合しているか否か、検証するに至っていない。
	3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4 ③ 2 1	教育理念に基づいたカリキュラムを編成し、理念達成を目指した看護教育に取り組んでいる。本校は、本学の附属看護専門学校として、本学の病院での実習を実施しており、高度医療・急性期医療に対応できる看護師を育成するため、授業検討並びに看護技術プロジェクトチームを組織し、主体的に学ぶための授業方法に取り組んでいる。また、国際的視野で看護を考える人材育成を目指し、科目設定はしていないが、専任教員が教授する看護学においては、それぞれ社会の動向、世界の動向について触れながら、必要な看護を考えていくことができるように取り組んでいる。今後は、国際的視野で看護を考えられるように科目を設定する、国際交流についての機会を作る等、検討している。
	4	社会ニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1	本学の中期的（3～5年）構想では、本校は本学の附属看護専門学校としてこれまで同様 1 学年定員を維持し、本学の病院並びに地域社会に貢献しうる看護師の育成に取り組んでいる。

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1) 課題

【理念・目的・期待する卒業生像】

1. 看護教育の多様化・国際化が進む中、社会的ニーズ等を踏まえた特色ある看護基礎教育のあり方が求められ、それら特色について明文化していく必要がある。そのためには、本学の病院並びに地域社会のニーズを把握して、教育課程、シラバスに反映していくことが望まれる。また、中・長期的な将来構想を明らかにしていく必要がある。

(2)今後の改善方策

【理念・目的・期待する卒業生像】

1. 本校の特色は何かを十分吟味した上で、本学の病院と連携し、また地域社会のニーズに即した質の高い看護基礎教育を目指していく。さらに本校の中・長期的、将来的な構想を学生・教職員・保護者・本学の病院並びに地域社会に周知していく。
2. 本校は医科大学の附属であることから、本学の構想に準じた、本校独自の教育計画を明確に設定していくことを今後も継続していく。
3. 教育目的・教育目標・期待する卒業生像を明文化する。

2)学校運営

中項目		小項目	評価	根拠
運営方針	5	理念等に沿った運営方針を定めているか	④ 3 2 1	教育理念・教育目標に基づき、毎年基本方針を策定している。この方針は、本校運営委員会の議を経て、学長諮問会議及び医学部教授会に報告されている。また、教職員全員が基本方針を共通理解し、成果達成に全力で取り組んでいる。
事業計画	6	理念等を達成するための事業計画を定めているか	④ 3 2 1	教育理念・教育目標を達成するため、単年度ごとに具体的な事業計画を策定している。本校の事業計画は、最終的に本学の附属施設として、学園本部の学校別事業概要欄に掲載され、関係部署に周知されている。
運営組織	7	学校運営のための組織を整備しているか	4 ③ 2 1	本校の管理運営を司る最も重要な会議体として運営委員会が設置されている。また、運営委員会規程により委員会の決定権限、委員構成等について明確に定め、定期的に委員会を開催して、議事録を作成している。 学校運営に必要な事務及び教務部門に係る学校運営組織図、各種委員会の位置づけ、役割の整備が十分ではない。
人事・給与制度	8	人事・給与に関する制度を整備しているか	④ 3 2 1	本校は本学の附属施設であるため、就業規則をはじめとする人事、給与等の規程については大学人事課が整備している。
意思決定システム	9	意思決定システムを整備しているか	④ 3 2 1	学校運営に関する意思決定の権限は、本校の各規程により明確に定めており、意思決定システムは確立している。

情報システム	10	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4 2	③ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度に学務システムを更新し、学生の成績管理や出欠管理、入学から卒業までの情報管理において円滑に運用されている。 ・LMS（学習支援システム）を導入し教職員と学生との情報交換等において円滑に運用している。 ・事務部門並びに教務部門にLANサーバーを導入し、学校全体でセキュリティ体制を整備するとともに情報の共有、業務の効率化を図っている。 ・校内に無線LANを設置し、学習環境が整備された。
--------	----	----------------------------	--------	--------	--

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

【運営方針】

1. 本校の管理運営を司る最も重要な会議体として運営委員会が置かれている。同委員会は大学の副学長（本校の担当副学長）を委員長として、学校運営に係る重要事項を審議している。本校は医科大学の附属施設の一つであることから、運営委員会で審議された重要案件については、必要に応じ学長の承認を得た上で決定している。また、学校長を委員長として入試委員会が置かれており、入学試験に関する審議及び合格者の予備判定を行っている。前述した運営委員会とともに規程を整備して、決定権限、委員会組織、審議内容等を明確に定め、円滑に機能している。

【運営組織】

1. 専任教員を主体とする会議体として「教員会」が置かれている。教員会は、学校行事の企画立案、成績、カリキュラムに関すること等、教学全般にわたり専任教員全員で協議、審議を行っている。このほか、学年末の進級審査、卒業判定などの重要案件の審議も行っている。このように教員会の業務・役割は広範囲に亘り、重要な役割を担う会議体であるが、規程が未整備である。今後、教員会の位置づけ、役割、業務内容と専任教員の関わり方について見直し、規程の整備も含め検討する必要がある。
2. 学校運営のための組織が整備され適正に運用されているが、各種委員会（教員会など）の権限、位置づけについて明文化されていない。

【人事・給与制度】

1. 学校の組織運営に携わる教職員の意欲、資質向上を図るための取り組みとして、毎年、年度末に人事評価を実施しているが、人員計画を立てるためには、中間評価等も必要である。

【情報システム】

1. 学務システムの更新、LMS（学習支援システム）及びLANサーバーの導入による、現状に即した情報システムの運用開始に伴い、教職員間における業務の共有化と効率化を図り、学生の教育・指導に活用する。

校内に無線LANが設置され、学習環境は整備されたが、学生の教育・指導にどのように活用していくのか検討する必要がある。

(2)今後の改善方策

【運営方針】

1. 学校長のリーダーシップのもと、専任教員と事務職員が連携し、教育理念、教育目標に沿った学校運営に取り組んでいく。

【運営組織】

1. 学校運営組織図を作成するとともに、教職員がそれぞれの分野で円滑な業務が達成できるよう、各会議体及び各種委員会の位置づけ、業務内容を明確に示した規程を制定する。また、本校の規程、細則等は、必要に応じて随時見直しを行い、適正な手続きを経て改正を行う。

【情報システム】

1. 業務の効率化と学生の教育支援の強化を目指して、新しい情報システム体制を最大限に活用し、教職員間における業務の共有化とデータの有効活用に取り組む。
ネットワークの利用規程、セキュリティ規程等、所要な規程を整備する。

3)教育活動

中項目		小項目	評価	根拠
目標の設定	11	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	④ 3 2 1	本校の教育理念・教育目標・基本方針並びに指定規則に則り、「教育計画」を作成し教職員に周知している。
	12	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④ 3 2 1	シラバスの中で学科課程・履修について科目進捗等明示し、また科目毎に教育内容・教育到達レベルを明確にしている。
教育方法・評価等	13	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4 ③ 2 1	本校の教育理念・教育目標・基本方針並びに指定規則に則り、学科目を組み立てている。また、各学科目については、学習目的・目標を明確にし、授業内容をシラバスに掲載している。
	14	教育課程について外部の意見を反映しているか	4 ③ 2 1	教育課程の編成及び改訂において、関連する業界や本学の病院の意見・情報を参考に行っている。職業実践教育の効果については、看護基礎教育と卒後教育を継続できるよう本学の病院の看護部と連携し、取り組んでいる。
	15	キャリア教育を実施しているか	4 ③ 2 1	キャリア教育は、授業において伝えてはいるが、独立した科目にはなっていない。

	16	授業評価を実施しているか	4 ③ 2 1	専任教員による講義・演習・実習の評価を実施している。その結果を授業改善に活用している。
単位認定・成績評価等	17	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④ 3 2 1	学科目成績及び臨地実習評価は規程を整備し明確化を図っている。専任教員は、これらの基準に基づき、教員会において適切な評価を行っている。この評価結果は、本校運営委員会の議を経て、最終的に学長の承認を得ている。
資格・免許の取得の指導体制	18	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	④ 3 2 1	看護師国家資格を得るためには、学科課程の全科目を履修することを入学時から明確に位置づけている。
	19	資格・免許取得の指導体制はあるか	④ 3 2 1	1年次の早い段階から3年後の看護師国家試験を見据えた国家試験対策を実施している。また、全国模擬試験等を受験し、その結果を学生の自己学習に繋げる等、全教員が国家試験合格に向けて取り組み指導体制を整えている。
教員・教員組織	20	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1	専任教員全員が、看護教員になるための臨床経験年数を満たしているが、教員養成講習会を未受講の専任教員もいる。なお、専任教員の中には、学士の称号又は修士課程修了者も数名いる。
	21	教員の資質向上への取組を行っているか	4 ③ 2 1	学校全体として研修・学会への参加、研究活動、自己啓発などへの支援体制は整備されている。今後、専任教員の専門性、教授力を把握・評価し、質の向上に努めていく。
	22	教員の組織体制を整備しているか	4 ③ 2 1	教員組織における業務分担・責任体制は確立されているが規程等は十分に整備されていない。専任教員間では連携・協力体制を構築し、授業内容・教育方法の改善に取り組んでいる。

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

【教育方法・評価】

1. 現行の教育課程は教育理念・目標達成に向け、修了に必要な授業時間数、授業科目間の配置などを勘案し体系的に編成していると言える。しかし、授業科目の目標に照らし合わせた内容・授業方法等について検討が必要である。
2. キャリア教育については、専任教員間における解釈が曖昧であり共通理解する必要がある。
3. 学生等による授業評価から得られる情報は、教育課程の見直しを進める上で有用なものである。現在本校では授業評価を実施する体制を整え授業改善に活用している。今後、非常勤講師にも周知する必要がある。

【教員・教員組織】

1. 実践的な職業教育機関として、実務経験があり専門性に優れた専任教員の採用や、資質の向上が望まれる。専任教員の専門性・資質向上のためには、専任教員の教授力（インタラクションスキル）を向上させることも重要であり、そのためには現状の専任教員の能力を適切に評価した上で、本学の病院並びに地域社会との連携による専任教員の研修・研究に取り組むことも必要である。
2. 教員組織における業務分担・責任体制は確立され適正に運営されている。運用に当たり、現行の見直しをする必要がある。
3. 専任教員の専門性・教授力を把握・評価する体制を整えていく。

(2)今後の改善方策

【教育方法・評価等】

1. シラバスの作成に当たっては、学生が主体的に取り組む、自己評価し成長できるよう分野・学科目間の関連性、学科目の学習目的・目標・内容・評価等を明確に示し、充実した内容にする。
2. キャリア教育についての定義を明確にし、どのような方法で取り入れるかなど、教員間で共通認識して進めていく。
3. 授業評価については、専任教員のみならず、非常勤講師も利用できるような評価システムを構築する。

【教員・教員組織】

1. 資格・要件を備えた教員の確保、専任教員養成講習未受講者に対し、受講に向けた取り組みをする。
2. 教員組織における業務分担・責任体制の見直しをする。
3. 自己研鑽については、自らの教育実践力向上につながる研究活動に積極的に取り組んでいく。また、学会やセミナーなどに積極的に参加し、伝達講習会等を開催する等、情報の共有化及び教員の資質向上を図る。
4. 教員経験年数別の教員ラダーを作成し、研修体系並びに人材育成の体系化に向けて検討する。
5. 専任教員の教授力向上のため計画的に専任教員間相互の授業参観を実施する。

4)学修成果

中項目		小項目	評価	根拠
就職率	23	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	本学では大学雇用戦略室を中心に本学への就職支援体制が確立されており、毎年開催される本学の病院の就職説明会には3年生全員が出席している。 学生のほぼ全員が看護師の資格を活かし関連する施設に進路決定をしており、学修した専門性を活かせる満足度の高い就職の実現を図っている。 また、卒業生の動向をデータ管理し就職指導に活用している。
資格・免許の取得率	24	資格・免許取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1	看護師国家試験対策（国試対策）プロジェクトチームを中心に合格率100%を目標として入学時から段階的な国試対策の計画・実施に取り組んでいる。 また、国試の結果をデータ管理し資格取得率等の情報及び推移について把握している。
卒業生の社会的評価	25	卒業生の社会的評価を把握しているか	4 3 ② 1	卒業生のうち本学の病院に就職した者の活躍については、概ね把握している。しかし、その他の卒業生の動向については十分に把握していない。

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

<p>【就職率】</p> <p>1. 就職率の更なる向上を目指して、看護職に就く意思のある学生確保を念頭におき、慎重に入学者を選抜する。</p> <p>また、入学後も学生個々の課題や問題に対し、きめ細かい指導や働きかけを継続し、就職支援体制を常に強化していく。</p> <p>【資格・免許の取得率】</p> <p>1. 看護師国家試験合格率100%を目標として、国家試験対策プロジェクトチームを中心に、国試対策の計画・実施に取り組み、指導体制をより強化していく。</p> <p>【卒業生の社会的評価】</p> <p>1. 本学の病院に就職した卒業生の活躍並びに業績を含めた社会的評価について、把握していく必要がある。</p>

(2)今後の改善方策

【就職率】

1. 看護職に就く意思のある学生確保を念頭におき、入学時の選抜方法を慎重に検討する。
また、学生の個々の課題や問題に対するきめ細かい指導や働きかけを継続し、常に就職支援体制の改善を行っていく。

【資格・免許の取得率】

1. 国家試験対策プロジェクトチームを中心に、国試対策の計画・実施に取り組み、計画に沿ったきめ細やかな指導を継続し、常に指導方法の改善を行っていく。

【卒業生の社会的評価】

1. 卒業生の活躍している実態について、本学の病院看護部との意見交換の機会をつくり把握していく。
2. 他施設などの卒業生の動向については、同窓会からの情報提供が得られるように働きかけることや卒業時に動向を連絡するよう学生に指導していく。

5)学生支援

中項目		小項目	評価	根拠
就職等進路	26	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	④ 3 2 1	本学の病院の就職説明・見学会への参加を促すとともに、学生個々の相談・指導体制を整備している。
中途退学への対応	27	退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1	定期面接での個別相談・学習支援を行うとともに、退学の意向があった場合は、学生の思いを十分に受け止め、その意思を尊重した上で、今後の学習継続の可能性に向けた方法を提案している。
学生相談	28	学生相談に関する体制を整備しているか	④ 3 2 1	1学年3クラス編成で、担任制をとっており、担任による定期面接に加え、学生個々の相談内容によっては、教職員一同で連絡・調整をし、適切に対応している。又、大学保健センターにはカウンセラーが常駐し、相談体制が整っている。
	29	留学生に対する相談体制を整備しているか	4 3 ② 1	留学生の受け入れ、入学後の相談体制等については十分に整備されていない。
学生生活	30	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	④ 3 2 1	本校独自の看護学生奨学金をはじめ、日本学生支援機構、栃木県修学資金が利用可能である。個々の状況（被災状況、家計の状況など）に合わせて学納金の分納など柔軟に対応している。

	31	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	④ 2	3 1	大学保健センターにおいて、学校保健安全法に基づいた健康診断や各種予防接種の実施、健康管理の指導、助言などが行われている。
	32	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4 2	③ 1	学生寮（看護学部生と共有）があり、24 時間体制で寮管理員が常駐し生活環境、セキュリティ面は万全である。 寮の規則に沿った入寮生の管理体制、生活指導について、周知徹底している。 利用人員等、充足状況は常に明確であり入寮希望者が定員を超えた場合は厳選に抽選を行い入寮者を決定している。
	33	課外活動に対する支援体制を整備しているか	4 2	③ 1	学生主体の自治組織として「杏友会」が設立されており、担当教員の指導のもと、会則に則り適正に運営している。
保護者との連携	34	保護者との連携体制を構築しているか	4 2	③ 1	入学時に保護者説明会を実施している。年度末に学生の学習状況を報告している。学生に関わる問題が生じた場合は、速やかに対応している。緊急時の連携体制は確立されている。
卒業生・社会人	35	卒業生への支援体制を整備しているか	4 2	③ 1	学生は、卒業と同時に本校の同窓会に入会し、同窓生としての親睦、連携を図っている。また、本学の病院就職者に対しては、SDセンターが中心となり、看護基礎教育と卒後教育の一貫教育体制が整備されている。本学以外に就職した卒業生については、個別に対応している。
	36	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4 2	③ 1	社会人入試及び一般入試(年齢制限はない)を導入して、広く社会人の入学を受け入れている。なお、社会人入学者に対しては、履修科目の認定制度を導入しており、履修内容により既修得科目の単位認定を行っている。

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

【中途退学への対応】

1. 中途退学した学生に関する情報（理由・対応・結果）がデータ化されていない。対応等について検討するに至っていない。中途退学の低減に向けた学内における連携・指導体制を確立する必要がある。

【学生相談】

1. 適切に対応しているので、今後も継続していく。
2. 留学生の受け入れ方針・相談体制等については十分に整備されていない。

【学生生活】

1. 看護学生専用の寮が設置されており、セキュリティ面では万全であるが居室数に制限があるため希望者全員が入寮できるとは限らない。学生・保護者に対して寮の最新情報を常に提供できるようにしている。
また、学生及び保護者がより安心できる管理体制と生活環境を維持していく。
2. 課外活動については、施設設備、活動規約などの整備はされているが、活動状況の把握が十分ではない。

【保護者との連携】

1. 学修支援、生活指導の面での問題解決にあたっては、保護者との連携が不可欠であるため、情報提供の機会・方法について検討していく必要がある。

【卒業生・社会人】

1. 卒業生の動向・業績を把握することは教育の評価となるため、情報を把握するための方法を検討していく。
2. 社会人入学生は多様な背景から進路を変更し入学しているので、学習ニーズや課題等を把握していく必要がある。

(2)今後の改善方策

【中途退学への対応】

1. 事案が生じた場合に適切な対応ができるよう、過去の事例をデータ化し、活用していく。

【学生相談】

1. 現在の体制を維持していく。
2. 本校が留学生を受け入れる場合は、医科大学関連部署の情報を得て支援体制等について検討していく。

【学生生活】

1. 学生の経済面・健康管理面については、現状の体制を継続していく。
2. 寮は看護学部生と共有であり、共同生活の場である。寮管理員及び他の関係部署との連携を強化し、入居者全員が安全に生活できるよう管理体制と生活環境の改善を常に行っていく。
3. 課外活動については、活動状況を把握し、学生がより充実した学生生活を送れるよう支援していく。

【保護者との連携】

1. 学生の学修支援、生活指導には保護者との連携を図ることが重要であることから、保護者会等を開催していく。

【卒業生・社会人】

1. 関連機関・本学の病院・同窓会等と連携して卒業生の動向・業績等を把握する。
2. 社会人学生の学習ニーズや課題等を明確にし、学修支援のあり方を検討する。

6)教育環境

中項目		小項目	評価	根拠
施設・設備等	37	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4 3 ② 1	施設・設備等は設置基準に適合しているものの、施設の老朽化、狭隘化が進み、総勢 300 名の学生教育に十分な教室、実習室、学生相談室、カンファレンスルームなどが恒常的に不足している。なお、施設については、学生の教育に支障を来さぬよう、優先順位を考慮して随時メンテナンスを行い、教室のメディア機器の新調やスクリーンの造設などの教育環境の整備を実施している。
学外実習・インターンシップ等	38	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4 ③ 2 1	本校は主に本学の病院で実習を行っている。その他、学外における実習施設を十分に確保し、実習調整者が施設の指導者と連携・協議しながら円滑な実習指導体制を整備している。インターンシップについては、学生が長期休暇等を利用して参加している。海外研修は実施していない。
防災・安全管理	39	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4 ③ 2 1	本校は「獨協医科大学消防計画」に基づき、医科大学（本部隊）の地区隊として自衛消防隊を組織し、万が一の有事に備え教職員各々の役割分担を明確に定めている。また、毎年、医学部、看護学

				部及び本校の学生を対象とした全学的な防災訓練を実施している。この他、学内のネットワークを利用したLMS（学習支援システム）を導入し、全学生に対する緊急時の安否確認が可能となっている。学生寮の防災体制については検討中である。
	40	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4 ③ 2 1	<p>学生が課外活動中の不慮の事故等によって被った傷害に対する救済措置に対応するため、学生全員が「学生総合保障制度」に加入している。</p> <p>「臨地実習時における災害対策」として、学内外実習への対応を取りまとめ周知している。また「獨協医科大学附属看護専門学校臨時休講に関する規程」を定め非常事態に対応している。さらに、全学生並びに教職員分の災害時の備蓄をしている。防犯対策として学生の個人ロッカー・防犯カメラを設置している。感染症対策については、「日本環境感染学会医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版」に則り対応している。</p>

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

【施設・設備等】

1. 建物の老朽化（開学40年以上経過）、各教室の狭隘化が進んでいる。
2. 校舎内における学年毎の大教室、会議室、実習室、学生相談室等が恒常的に不足している。
3. 実習室の広さは1学年100名の学生数に対し、ベッドの配置等を確保するためのスペースが十分ではない。また、学生が自由に練習に取り組むスペースを確保することが困難である。
4. 学内の無線LANが整備されたが、無線LANを有効活用した教育方法を検討している。

【学外実習・インターンシップ等】

1. 海外研修は行っていない。

【防災・安全管理】

1. 災害発生時における具体的行動マニュアル・学生寮の防災体制の整備を検討する方針である。
2. 本校としての、感染症対策についての整備を検討する方針である。

(2)今後の改善方策

【施設・設備等】

1. 将来的に校舎建て替えが実現するまでの間、大学基本計画に基づき、計画的にメンテナンスを行い、学生の学習環境の維持を図っていく。
2. 校舎内における実習室、各教室の狭隘化が進んでいるため、講義・演習・実習において、今後も、使用時間・場所の調整等を行い、計画的に学習環境を整備していく。
3. 学内無線LANが完備されたため、タブレットを利用した授業を展開し、学生が学内のグループワークを行う際などに、最新の情報が得られるよう、IT時代に対応した教育方法を検討する。

【学外実習・インターンシップ等】

1. 海外研修について検討していく。

【防災・安全管理】

1. 授業・学外実習中に発生した事故・災害に関して、具体的行動マニュアルの作成をしていく。
2. 学生寮の防災に関しては、関係機関と連携し整備していく。
3. 本校としての、感染症対策についての具体的マニュアルの作成に取り組む。

7)学生の募集と受入れ

中項目		小項目	評価	根拠
学生募集活動	41	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	④ 3 2 1	広報プロジェクトチームの計画に沿って高等学校、業者主催の進路説明会やガイダンスに参加している。また、受験生、保護者等を対象としたオープンキャンパスや進路指導教員を対象とした入試説明会を実施している。また、ホームページ上に学校案内・学生募集の情報を掲載している。 魅力ある学校案内パンフレットの制作にも力を入れている。
	42	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	④ 3 2 1	夏に3回実施するオープンキャンパスの他、高校2年生及び社会人を対象とした学校説明会を開催している。アンケート結果では、時期・方法・内容等、毎回高い評価を得ている。
入学選考	43	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④ 3 2 1	入学選考基準を明確に定め、入試委員会・運営委員会において適切に合否判定を行っている。
	44	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4 ③ 2 1	入学選考に関する実績はデータ管理すると共に傾向分析し、入試委員会において入学者数の予測等に役立てているが、さらに授業改善に活用できるよう検討していく。

学納金	45	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4 2	③ 1	学納金（入学金・授業料・教育充実費等）は、決算の収支バランスからみてもかなり安価であり、経費内容に対応した額とはいいがたく、算定根拠も明確ではない。 なお、学納金の詳細は募集要項に掲載した上で、学生募集を行っている。
	46	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	④ 2	3 1	文部科学省通知の趣旨に沿って、入学辞退者に対する学納金の返還を適正に処理し、また、募集要項にも明示している。

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

【学生募集活動】

1. 広報活動として実施した結果をもとに、参加者の満足が得られるよう、さらに実施内容の充実を図っていく必要がある。

【入学選考】

1. 看護専門職者にふさわしい人材を輩出することが本校の責任であると考え、18歳人口減少が進む中、単に学生数の確保だけにとらわれず、選考を慎重に行う必要がある。
2. 入学生全員に実施する「入学前教育」の結果分析をもとに入学者の傾向について把握し、どのように授業方法の改善に活用するか今後検討が必要である。

【学納金】

1. 本校は、平成3年度に入学金の値上げを行い、その後、平成20年度に授業料と教育充実費の値上げを行っている。これ以降、学納金の見直しは行われておらず、現在に至っている。学納金の算定については社会情勢等の将来を見据えて慎重に検討しなければならない。今般、学納金の水準について、全国私立医科大学附属の看護専門学校（3年課程）数校と比較したところ、入学金を除く3年間の学納金総額は概ね同等の水準であった。しかしながら、入学金については、他校の2分の1と、かなり低い水準であった。一方、本校の収支バランスから見た場合、現行の学納金額は、教育内容、必要経費を基本に算定しているとはいいがたく、かなり安価な額となっている。

昨今の18歳人口の減少、受験生の専門学校離れ等を考慮すると、学納金の値上げが学生募集、受験生の確保にどのように影響するかをよく見極めた上で検討していくことが重要な課題である。

(2)今後の改善方策

【学生募集活動】

1. 広報活動として実施した結果の分析に基づき、今後も学生募集活動に力を入れていく。
また、ホームページの充実に取り組み、学生募集活動の更なる充実を図る。

【入学選考】

1. 入学選考による実績等の情報（入学生の学習傾向）を正確に把握し、教職員全体で共有し、授業方法改善に取り組んでいく。

【学納金】

1. 本校の財政状況を踏まえた上で、学納金のうち入学金の妥当性を検討していく。

8)財務

中項目		小項目	評価	根拠
予算・収支計画	47	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	④ 3 2 1	本校の教育理念、教育目標を達成するために、毎年計画的に予算編成を策定している。また学園本部、本学の基本方針のもと、中長期計画を策定している。
	48	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	④ 3 2 1	策定した予算、事業計画に基づき、経費の削減に取り組み、適正に執行している。また、中間決算を行い、予算の執行状況を検証している。
監査	49	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	④ 3 2 1	法人本部の監査員ならびに公認会計士による会計監査を実施している。
財務情報の公開	50	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	④ 3 2 1	財務情報管理および公開体制は全学的に医科大学で行っている。

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

特になし

(2)今後の改善方策

特になし

9)法令等の遵守

中項目		小項目	評価	根拠
関係法令、設置基準等の遵守	51	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④ 3 2 1	学校教育法・保健師助産師看護師法・養成所指定規則に基づき、適正に運営している。
個人情報保護	52	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4 ③ 2 1	本学としての個人情報保護規程にあわせて、本校独自の規程を検討していく方針である。
学校評価	53	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④ 3 2 1	平成 27 年度に、学校評価プロジェクトを立ち上げ、自己点検・評価規程並びに自己点検・評価委員会規程の整備を行い、平成 28 年度に第 1 回目の自己点検・評価を実施し、その後も継続して取り組んでいる。
	54	自己評価結果を公表しているか	④ 3 2 1	平成 29 年度の自己点検・評価報告書の作成に取り組み、公表した。
	55	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4 3 2 ①	今後実施する予定である。
	56	学校関係者評価結果を公表しているか	4 3 2 ①	今後実施する予定である。
教育情報の公開	57	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	④ 3 2 1	ホームページやオープンキャンパス、高等学校への訪問・進学ガイダンスなどで、学校概要・教育内容・入試情報など提供している。

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

【個人情報保護】

1. 獨協医科大学の個人情報保護規程は、整備されているものの、本校独自の規程は未整備である。

【学校評価】

1. 本校は、平成 28 年度に初めて自己点検・評価を実施し、公表した。今後は学校関係者評価の実施体制を構築し、取り組む必要がある。

(2)今後の改善方策

【個人情報保護】

1. 本校は、入学試験に関する個人情報、学生の成績に関する個人情報など膨大な情報を有していることから、これらの個人情報を適切に管理・運用しなければならない。獨協医科大学の個人情報保護規程の第17条「学生及び患者に係る個人情報保護に関する取扱いについては、当該所管部署において別に定める」に則り、教育機関として適切な取り扱いをする観点からも、本校独自の個人情報管理に関する基本方針並びに規程を定める。

【学校評価】

1. 今後も「専修学校における学校評価ガイドライン」（平成25年3月文部科学省策定）に基づく自己点検・評価を継続的に実施していき、さらに学校関係者評価、第三者評価の実施につなげていく。

10)社会貢献・地域貢献

中項目		小項目	評価	根拠
社会貢献・地域貢献	58	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1	関係団体(県・看護協会等)の各講習会・研修会等の講師派遣、関係団体に学校施設や教材を貸出提供している。学園祭では、学生が健康教育に関して企画・運営・実施し、地域に貢献している。しかし、広く地域社会への施設開放や出張講義は実施していない。
	59	国際交流に取り組んでいるか	4 3 2 ①	海外教育機関との交換留学・教職員人事交流等は実施していない。
ボランティア活動	60	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4 ③ 2 1	近隣施設・本学の病院からのボランティア要請時には、活動支援を行っている。しかし、学生個々が行っている活動把握は不十分であり、評価には至っていない。

評価基準：適切 4 ・ ほぼ適切 3 ・ やや不適切 2 ・ 不適切 1

(1)課題

【社会貢献・地域貢献】

1. 本校に関連する施設等に対し、教室等の開放又は備品等の貸し出しを行っているが、広く地域社会への開放には至っていない。
2. 国際交流に取り組むためには、時間・資金の面で問題がある。

【ボランティア活動】

1. 学生が行っている活動の把握は不十分であり、評価できていない。

(2)今後の改善方策

【社会貢献・地域貢献】

1. 学校施設・設備・教材の紹介及び教員による学習講座の開講等を企画する。
2. 海外の教育および医療機関に留学や就労している人からの情報を得て見聞を広げるための企画をする。

【ボランティア活動】

1. 学生がボランティアを行う場合、「ボランティア活動申請書・結果報告書」を提出させ、活動状況を把握・評価し、共有することで学生の社会性を育む機会とする。